



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
令和元年12月23日
☎55-2260 第9号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



楽しい冬休み そして2020年

12月(師走)が訪れたと思っていたら、もう年末がやってきました。年齢と共に月日の流れの早さが増すような気がするの、私だけではないようですが、あつと言う間に今年も終わりに近づいてきました。

2学期は、8月26日にスタートしました。それから4ヶ月間、大きな事故やけがで長期に休む児童もなく、無事、冬休みを迎えることができました。保護者の皆様をはじめ、地域の方々のご支援・ご協力のおかげと、教職員一同感謝しております。

さて、2学期を振り返ってみますと、10月の学芸会は、台風の影響も心配しましたが子どもたち一人一人が自分の力を出し、協力し合って創り上げることができました。また、学習面でも、「家庭学習の手引き」を利用して、自主勉強や読書、算数のスキル計算や漢字の書き取りなど、日々の学習習慣を充実し、基礎・基本をしっかりと身に付けてきました。生活面では、ボール遊びや鬼ごっこなど外に出てみんなで遊ぶ姿が多くみられ、寒さに負けない丈夫な体づくりを心掛けてきました。子どもたち一人一人が大きく成長した学期でした。

子どもたちが楽しみにしている冬休みですが、年末・年始という特別な時期でもあり、各家庭や地域の催し事などに参加し家族の一員としての役割を果たす機会でもあると考えます。どうぞ安全で健康な、楽しい冬休みが過ごせますよう、保護者・地域の皆様冬休みもよろしく願いいたします。そして2020年を迎えたいと思います。

ラグビーワールドカップから感じたこと

今年行われたラグビーワールドカップでは、日本チームの試合に日本中が釘付けになり、多くの方々が感動したことと思います。私もその一人です。

さて、日本チームが掲げていた言葉に「ワンチーム」がありました。今年の流行語大賞にもなりました。「ワンチーム」になるために、お互いのことを尊重し合うという姿勢はとても大切だと思います。そして、それぞれの役割が達成されるようにみんなでフォローする。ラグビー選手は、自分がタックルにいったときに、そのあと必ず続けてタックルしてくれる仲間がいるから、思い切って当たることができるそうです。ボールを持って走るときも、後ろから仲間が走ってくることを信じているから相手に向かっていけるそうです。この仲間を信じる心、そしてみんなでフォローすることで安心できる心がチームを強くしていると思います。

学校で考えれば、学級は「ワンチーム」でなければいけません。学級にいる子どもたちも、それぞれ考え方も違えば感じ方も違います。一人一人がみな違うからこそ、お互いのことを理解し、受け入れなければならないのです。学級の友だちは、一緒に成長していくための大切な仲間です。自分ががんばろうと思っているときに声をかけてくれたり、自分が失敗したときには励ましてくれたり、声をかけてくれる仲間がいることで、安心して生活していけるし、チャレンジできるのだと思います。

先月、小規模校フットサル大会がありました。月立小、大島小、小泉小の3校で行ったわけですが、子供たちは、ワールドカップラグビー以上に熱い戦いを繰り広げました。何より嬉しかったのは月立小学校の子供たちが「ワンチーム」として戦い、見事優勝したことでした。

これからも月立小学校は、一人一人を大切に、尊重しあえる「ワンチーム」となることを目指していきたいと思っています。

